

令和6年度第1回ゼロエミッションみえ推進会議 概要

- 1 開催日：令和6年10月29日（火）15時10分から15時25分
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

●小見山 政策企画部長

「令和6年度第1回ゼロエミッションみえ推進会議」を開催する。
本日は「ゼロエミッションみえ」プロジェクトにおける令和6年度前半の取組状況をご報告する。それでは、事務局から説明をさせていただきます。

※資料について、事務局（世古ゼロエミッションプロジェクト総括監）から説明

☆松下 雇用経済部長

自動車分野のEV化等について、これまでの自動車産業の業態転換、事業再構築の県内企業の事例を、ベストプラクティス等として整理し、県内企業への横展開ができるように取り組みたい。

カーボンニュートラルコンビナートについて、国からの支援も活用し、四日市市等の事業も含めて、水素・アンモニアの受入れ拠点づくりに取り組んでいきたい。

洋上風発電について、経済波及効果の調査を進めている。今後はより一層スピード感を持ちつつ取り組んでいきたい。

太陽光発電施設の適正導入について、地域との共生が求められており、引き続き関係部局と連携して取組を進めていきたい。

☆佐藤 環境生活部環境共生局長

使用済み太陽光パネルについては、2030年代後半以降に大量廃棄が想定されるため、国でもリサイクル義務化の制度的枠組みの議論が進んでいる。三重県においても、国の動向を見極めながら、関係者と体制の構築に向けて検討をしていきたい。

雇用経済部から発言があったように太陽光発電施設の適正導入については、環境共生局としても、引き続き連携して対応していきたい。

☆中野 農林水産部長

J-クレジットの関係は、名張市の県行造林において、今年度中の認証を予定している。引き続き、政策企画部と連携して森林由来のJ-クレジットの普及・啓発を進めることで、森林の整備や適性管理につなげたい。

☆若尾 県土整備部長

カーボンニュートラルレポートについて、津松阪港と尾鷲港の脱炭素計画の骨子案を国土交通省と協議中であり、今年度中の策定をめざしている。

洋上風力発電の基地港湾について、関係部局と連携しながら調査を進めていきたい。

●小見山 政策企画部長

最後に知事からのコメントをお願いしたい。

☆一見知事

洋上風力設置に係る基地港湾について、将来的な課題として着実に前に進むように取り組んでほしい。

J-クレジットは、プラットフォームを設置した。着実に前へ進むよう取り組んでほしい。県行造林について、名張から始めたが、他の地域もどのような形で進めるか検討し、進めてほしい。

太陽光発電施設は、ガイドラインを見直した。引き続き対応をお願いしたい。

水素・アンモニアについて、国を待つだけでなく、四日市での議論も踏まえ、県独自の取組も含め推進してほしい。

洋上風力について、近隣県で進んでおり、三重県だけが取り残されることを危惧している。着床式は関係者との調整が必要であるし、浮体式は技術的なブレイクスルーが必要であるが、早めに手を挙げられるよう県土整備部の基地港湾の検討とあわせて進めてほしい。

●小見山 政策企画部長

引き続き、部局横断の取組やカーボンニュートラル実現に向けた先進的な調査・研究等について、各部局と連携して取り組んでいく。

これで、「令和6年度第1回ゼロエミッションみえ推進会議」を終了する。